



# Périodique du Sénégal

2018.11(第7号)

## 【セネガルってどこ?】

セネガル共和国は西アフリカの西端で大西洋に面したフランス語圏の国です。首都はダカール、国土面積は日本の約半分、人口は約1,500万人です。現在、約3か月の雨季が終わりを迎え、これから長い乾季に入ろうとしています。この通信では活動報告に加えて、セネガルの文化や生活の様子も一緒にお伝えしていきたいと思います。

JICA 青年海外協力隊(JOCV)

家畜飼育隊員

セネガル共和国

ルーガ州リンゲール県

2017/7-2019/7

### 【セネガルで活動するボランティア】

セネガルには現在、青年海外協力隊とシニアボランティアを合わせて約50名のボランティアが活動しています。半年ごとに2年間の任期を終えた隊員が帰国し、新隊員が派遣されています。ボランティアは教育、医療、農業などの分野で各行政機関に配属して活動を行っています。



首都：ダカール



浮田 真琴

獣医学類を2017年3月に卒業  
同年7月よりセネガルで活動中

## L'ELEVAGE

## 家畜



生活に欠かせない家畜。その利用方法について少しご紹介します。

## ➤ 肉

行事ごとでは、豪華な食事が振舞われます。各家庭で飼育している家畜や購入してきた家畜をさばいて、それを調理します。普段の食事で肉を食べる際には、市場で売られている肉を購入することができます。



## 「炭火焼“ジビテリ”」

また、ヤギや羊の肉の炭火焼“ジビテリ”を売っているお店もたくさんあります。味付けされた骨付き肉とタマネギを炭火で焼いて、マスタードをつけて食べます。お店は朝から晩までやっていて、朝食として肉を食べる人もたくさんいます。

## ➤ 革

家畜の革も利用されます。太鼓やお守りを作ったり、革製品のバッグや小銭入れを作ったりしています。



## 「お守りをつけた子ども」

## ➤ ミルク

8月の終わりから雨が降り始め、砂地に草が生えたことで、生草を食べる牛、ヤギ、羊の搾乳ができるようになりました。セネガルのコブウシからは、1日あたり1リットル程度しか搾ることができませんが、女性たちが朝夕2回手搾りをしています。



## 「搾乳をする女性」

村の人たちは、冷蔵庫がないため、搾った生乳をひょうたんで作った容器で保存します。容器の中で発酵が進み、ヨーグルトのようなものができるので、彼女たちはこれを売って収入を得ています。



## 「生乳の保存方法」

## AADA 文化

## SENEGAL セネガル

今号では、遊牧民プル族の身なりについてご紹介します！

## ➤ 家畜を引き連れる男性

彼らは、特徴的な股の深いズボンを履き、頭には布を巻いています。また、家畜を誘導するための棒を持ち、肩にかけて歩いています。この姿がまさにプル族！



## ➤ 美しいプル族女性

一方、女性にもプル族ならではの身なりがあります。

## ▼顔の入れ墨

彼女たちは、口の下に入れ墨をしています。これは、美しさと痛みを耐えられた強い女性の象徴とされています。

## ▼ピアス

ピアスを始めとする身に着けているものが彼女たちの財産です。



## 【畜産省の取り組み】

### 【小反芻獣疫 Peste des petits ruminants】

1940年代にコートジボワールで発生して以来、現在はアフリカ、中東、アジアの国々で発生が報告されている小反芻獣疫(PPR)は、極めて致死性の高い伝染病です。セネガルでも発生が報告されていて、大きな被害になりうると最も問題視されている疾病のひとつです。



PPRは2011年に世界から撲滅した牛痘と近縁のウイルスであり、弱毒生ワクチンにより予防ができること、感染期間が比較的短いことなど撲滅させるためには条件の良い伝染病です。現在、この15年計画の最初の段階ですが、セネガル国内も支援を受けて根絶に向けた活動に取り組んでいます。



「ワクチン接種用の柵」



セネガル含め、アフリカやアジアなどの農村では、小型反芻動物であるヤギや羊は重要な資産であり、それらに依存した生活を送っています。そこで、食の安全だけでなく、経済的にも大きな影響をもたらす恐れのあるPPRを2030年までに根絶しようと、OIE(国際獣疫事務局)とFAO(国連食糧農業機関)が合同で2016年に国際プログラムを立ち上げました。



「ワクチンの啓発活動」

任地ではPPR根絶のための取り組みとして、PPRの認知度を上げることと、ワクチン接種の強化を行っています。遊牧中は、感染動物の分泌物や排泄物との接触が多くなります。そのため、遊牧前の時期に、村を巡回してPPRの認知度を上げ、関心を高めてもらう宣伝活動が行われました。また、各地域でワクチン接種に取り組んでいます。支援のおかげで、PPRワクチンは約10円/頭で受けられるため、畜主への負担も少なくなっています。

## 【人工授精 (AI)】

現在、セネガル国内では凍結精液の生産はしていませんが、ストローを輸入してAIを行っています。とはいえ、まだまだ自然交配が一般的です。

セネガルの牛の多くは、南アジアで家畜化されたゴブウシ (Zebu)が西アフリカに伝わり、のちに交雑されたゴブラ (Gobra)と呼ばれる品種です。この品種は耐暑性があり、熱帯性の病気に対する抵抗力も強いです。そこで、この品種とヨーロッパ原産のホルスタイン牛(Holstein)やモンベリアルド牛(Monbeliarde)などの乳牛を掛け合わせして乳量を上げようとしています。



「直腸検査を練習する実習生」



「直腸検査中のゴブラ」

ゴブラは、約12カ月齢で授精可能となるホルスタイン牛と比べて繁殖機能の発達が遅く、授精開始は24カ月齢を超えてからだそうです。また、卵巣がとても小さいため、直腸検査では子宮のみ確認し、妊娠の有無と子宮に異常がないかのチェックをします。そのため、AIは全て膈内留置型プロジェステロン製剤を使った発情同期化プログラムが実施されます。

交雑が進み、年中搾乳のできる牛が増えることを望みますが、新たな課題も出てくると感じています。それに対応するために、飼料や生産物の管理環境も同時に発展させていく必要があると思います。

## 【鶏の病気】

雨季中、鶏舎内に雨が入り湿気が多なったこと、節足動物が増加したこと、ハジラミによる脱羽や鶏痘の発生が多くみられました。この地域の鶏は繁殖目的で飼われていて、オールインオールアウトで飼育することは難しく、数も少ないため簡単には手放すことができません。そのため、二次感染を予防して死亡数を抑え、鶏舎の掃除と消毒を行っています。

村では飼育方法の話合いをしながら、村全体で鶏を増やしていく活動を続けています。課題ばかりですが、ゆっくりでも進んでいけるよう残りの活動に取り組みたいと思います。



「顔面に発痘した鶏」



「鶏舎の掃除」